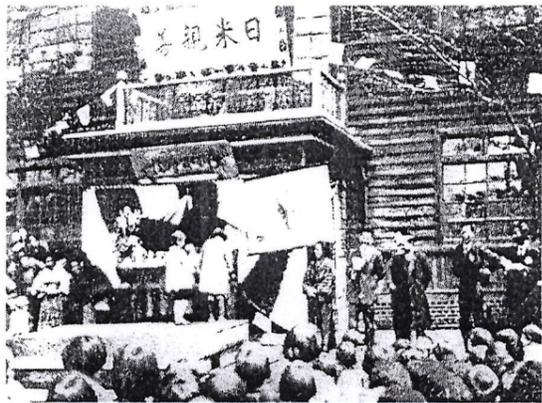


●発行：千葉県市川市
●編集：市長公室広報課
●〒272 千葉県市川市八幡1丁目1番1号
●電話：(0473)34-1111(代)

広報いちかわは新聞に折り込み配布しています。届いていない世帯には郵送しますので、広報課へご連絡ください。

歴史を見つめた“青い瞳”



▲昭和2年市川小で行われた「青い目の人形歓迎会」



▲市川小児童に抱かれた青い目の人形は、写真でガーデナ市へ



▲アメリカから贈られた「青い目の人形」(佐原市立香取小学校所蔵)

「友情と平和」の親善使節として、アメリカの子どもたちから日本の子どもたちに贈られた「青い目の人形」。彼らたちは、ふるさとを遠く離れた日本で、開戦から終戦、そして現在まで、「歴史」を見つめ続けてきました。戦後五十年という節目を迎えた今、青い目の人形を通して、改めて平和の尊さについて考えてみたいと思います。

『平和への祈り』今も……

昭和のはじめ、アメリカでは日本人移民への排斥、排日運動が高まり、日米関係は悪化の一途をたどっていました。

そのような状況を憂いた宣教師シドニー・ルイス・ギューリック博士は、日本の子どもたちと人形を通して友情の交流をはかり、日米関係を修復しようと全米に呼びかけました。子どもたちの募金やボランティアにより、一万二千体を超える「青い目の人形」が集められ、昭和二年、親善使節として日本に贈られました。

「青い目の人形」は、全国の小学校や幼稚園に贈られ、各地で大歓迎されました。市川にも数体の人形が贈られました。当時の写真や学校の沿革史で、市川小、国分小の二校が事実として確認されています。

この心温まる贈り物のお礼として、日本でも子どもたちの寄付金で「答礼人形」五十八体がつくられ、海を渡っていききました。

「非運の人形たち」
ギューリック博士や子どもたちの願いもむなしく、

市川市・ガーデナ市

「交換人形」再び

戦後五十年の節目に、市川市の子どもたちに、六十年の夏、市川市から姉妹都市の米国カリフォルニア州ガーデナ市に、姉妹都市協会に託した平和への願いと戦争の悲惨さを知ってもらい、改めて平和の尊さを理解してもらいたい。また、当時の子どもたちの果たせなかった平和への願いを私たちの時代に実現したい。



▲復元新調した「日本人形」

昭和十六年十二月八日、太平洋戦争が開戦されると、日本では軍国教育が高まり、「青い目の人形」も敵性品とみなされ、焼かれたり竹槍で突かれるなど、多くが処分されてしまいました。

その一方で「人形には罪はない」「友情の人形を壊すのはしのびない」と、ひそかに保護された人形もあり、現在全国で二百五十体あまりが見つかっています。

残念ながら市川には人形は残っていませんが、県内では佐原市立香取小学校などに六体が現存しています。

一方、ガーデナ市でも、二年後の姉妹都市締結三十五周年に合わせ、青い目の人形」を新たに作り、市川市に贈る計画で、募金活動が進んでいます。

平和関連記事 2・3面に掲載



市川小児童会長
松橋英里枝さん

「青い目の人形」をはじめ、お話を聞くうちに、この人形に悲しい歴史があるという事がわかりました。

青い目の人形に平和を思う

アメリカの人たちは、贈られて来た時は、きつとかわいいお人形だっただけで、日本の子どもたちにかわいがって、もたらえると思っても、戦争のために仲間のお人形が焼かれたりして、悲しい気持ちになったために、悲しい顔になってしまったのかも知れないと思いました。

アメリカの人たちは、お人形一つひとつにお金では買えない大切な思いを込めて贈ってくれたんだと思います。日本からお礼で贈った日本人形は、アメリカでは焼かれたりしなかったのに、青い目のお人形は本当にかわいそうです。戦争は絶対にしてはいけない、と心から思いました。

世界の平和に向け 決意あらたに

その当時のことが思い出され胸が痛みます。終戦から五十年の歳月が流れ、市川市では戦後生まれの世代が七〇％を超えてお



市川市長
高橋 國雄

今年、戦後五十年という節目の年に当たり、真摯に歴史を振り返り、世界の平和に向けて心あらたに発信する大変意義深い年でもあります。

市川市は、昭和五十九年十一月十五日に「核兵器廃絶平和都市」宣言を行いました。この宣言は、世界に向けて、核兵器の廃絶と生命の尊厳、そして恒久平和の確立を訴えたものです。

さらに平成元年には、県下に先駆けて「平和基金」を設置しました。これまでこの基金を活用して、さまざまな啓発活動や平和事業を行って

てまいりました。また今年、戦争の無意味さ、核兵器の恐ろしさ等を後世に語り継いでいくために、平和ビデオも作成しました。

私も先の大戦では一兵卒として召集され、戦地に赴きました。毎年この時期になると、その当時のことが思い出され胸が痛みます。終戦から五十年の歳月が流れ、市川市では戦後生まれの世代が七〇％を超えてお